

令和 6 年 度
事 業 報 告 書

学 校 法 人 清 水 国 際 学 園

目 次

はじめに	1
I 法人の概要	2
沿 革	4
令和 6 年度校務分掌組織図、委員会	5
設置する学校・学科、役員・教職員の概要	6
II 令和 6 年度事業報告	7
令和 6 年度決算について	9
III 財務の概要（令和 6 年度決算付属資料）	14

は じ め に

令和6年度の事業報告書が出来ましたので、令和6年度の事業内容及び決算内容についてご報告させていただきます。今年の入学者は151名、全校生徒数451名でスタートしました。生徒の動きに関しては4月8日の入学式に始まり、年を明けて3年生は3月1日の卒業式、1・2年生は3月19日の終業式で終わりました。令和6年度は、夏休み期間中にグランドの人工芝の張替を初めて行なったほか、3月の春休み期間中に別館校舎のエアコンの更新を行ないました。別館の各教室にあるエアコンは平成18年に設置したもので、平成24年に別館校舎の耐震補強工事を行なった際も設置してから間もないことから、そのまま使用していたものですが、さすがにここ最近、故障が目立つようになり、故障しても部品がない為、そのままとなっている部屋もありました。新校舎建設及び既存校舎の耐震改修から11年以上経過し、施設の改修が必要となってきたのかもしれない。そして、2月には校地の西側の土地約200坪を購入しました。また、令和7年4月から私立学校法の一部を改正する法律が施行されたことに伴い清水国際学園の寄附行為も大幅に変更されました。

何かとあわただしいこの1年でしたが、この1年の転退学者や退学者は22名おりました。前年度が29名でしたので若干減りましたが、在籍生徒数に比べると多い人数だと思います。ここ数年入学してくる生徒を見ていますと、小学校や中学校の時に不登校であった生徒がやや目立つように感じます。中学までは義務教育なので休みが多くても卒業できますが、高校は義務教育ではないので、成績と出席日数と授業料の滞納がないことが進級や卒業の条件になります。以前の退学者は元気で飲酒・喫煙や暴力などが目立ちましたが、最近の退学者を見ると、大人しく学校に来て教室に入れないとか体調不良で欠席する生徒が多いと感じます。私も子供や孫を持つ一人の親として考えた時、中退した生徒はどうするのだろう、保護者もいつまでも子供の面倒は見えないのになどと思ってしまう。長い人生の中で高校生活の3年間というのはごく短い期間です。うちに来た生徒には是非、卒業まで頑張ってもらって、進学や就職につなげていてもらいたいと思います。そのための環境づくりに教職員全員で一丸となって取り組んでまいりますので、理事・評議員の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

I. 法人の概要

1. 基本情報

- ①法人の名称 学校法人清水国際学園
- ②住所 静岡県静岡市清水区天神一丁目4番1号
- ③電話番号等 TEL054-366-4155 Fax054-365-9137
- ④HP: <https://www.shimizu-kokusai.ac.jp>
- ⑤Email main@shimizu-kokusai.ac.jp

2. 本校の目的

本校は、教育基本法及び学校教育法にもとづき、生徒に高等普通教育及び専門教育を施し、キリスト教教義による人格の完成をはかり、平和的な国家および社会の一員として、真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、協和の精神に満ち、平和と人類福祉に貢献する人間性豊かな国際人を育てることを目的としている。

3. 教育の方針

本校は昭和8年（1933）、故市毛金太郎先生ならびに故市毛道先生によって設立された清水裁縫女学校、清水商業女学校が前身である。創立者の信仰がやがて昭和24年キリスト教学校教育同盟への加盟を実現し、以来キリスト教の教義を基にして教育を行ってきているものである。したがって、一般の学校では見られない宗教的情操を養い、宗教的信念の確立を目指している。

そのため、本校では一貫した教育方針により、教育基本法にのっとり、人格の完成を目指し、平和な国家および社会の有為な形成者として、自主的精神にみちた、心身ともに健全な国民の育成を期している。さらに建学の精神に基づき、長年の伝統と使命によって、豊かな情操と徳性を培うことを特に強調している。最後に、キリストの「隣人を自分のように愛しなさい。」という教えを身につけ、語学力を向上させ、国際社会で活躍できる人間を教育することを方針としている。

4. 校訓の意味

しせいいつしょうをつらぬき きんろうひやくじにあたり きょうわばんぜんをきす
「至誠貫一生 勤労当百事 協和期万全」の校訓は、学校生活はもちろん、社会人と

なっても真摯な態度でことに当たり、誠実に生きることが求めると共に、勤勉さを美德とし、すべてに全力をあげて打ち込むことを教えている。そして社会に生きる時に、自己の本領を失わずに、他と協調して、正しい生活が送れるようにせよ、というものである。これは、神

の恩恵によって尊い人生を^う稟け、恩愛深い父母のもとで成長し、現代の文化を享受しながら、社会に連帯していく青年が、いかに努力すべきかの指針を与えたものであり、細川潤次郎氏の賛撰した名句を初代校長市毛金太郎氏が感銘をうけてあえて制定したものである。

5. 校章の意味

中央上の十字架は、本校が、神様の導きのもとに進む学校であることを示している。

地球は、国際社会をイメージし、緑の大地と青い海、コバルトの空が輝くこの美しい地球の平和と環境を守り21世紀の国際社会で活躍できる人材の育成を目指す学校であることを意味している。

また、本校は、清らかな富士山を仰ぎ見る清水の地にあるので、左右の曲線と白抜きで、美しい富士山と白い雪を表現した。生徒が、富士山のように、清く大きく成長するようにとの願いが込められている。

6. 校歌の意味

校歌には、本校の校訓の三本柱である「至誠・勤労・協和」が、またこの郷土清水の美しい風景である「富士の峰」「駿河湾」「三保の松」が読み込まれている。

作詞は、初代校長市毛金太郎氏の後輩にあたり、「ぎんぎんぎらぎら夕日がしずむ」の作詞者である葛原^{くず はら}しげる氏、作曲は童謡作曲家で著名な弘田竜太郎氏で、正式に完成したのは、昭和15年である。

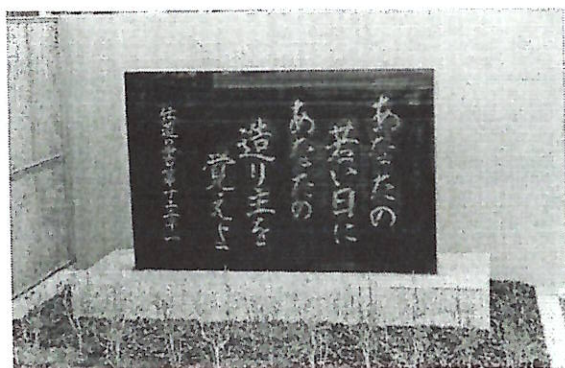
7. 歴史を刻む校庭の石碑



校訓の碑

「至誠貫一生 勤労当百事 協和期万全」

昭和50年(1975)度卒業生が卒業記念に建てた。前年度には創立40周年の式典が挙行された。校訓の字は初代校長市毛金太郎先生が昭和36年に書かれたもの。



聖句の碑

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」

市毛金太郎先生が本校の設立にあたって思い願った聖句で、現在は「コヘレトの言葉 12章1節」に「若き日に、あなたの造り主を心に刻め」と訳されている。

碑は昭和59年(1984)の秋に、創立50周年を記念し、全能なる神様の豊かなお恵みとお導きにより、学園に学ぶ生徒が喜びと希望と感謝に満ちた日々を過ごすことを祈って建てられた。

8. 沿革

- 昭和
- 8. 10. 1 清水裁縫女学校設立を認可された。
 - 11. 5 清水商業女学校設立を認可された。
 - 9. 4. 5 市毛金太郎氏 初代校長に就任。
清水商業女学校・清水裁縫女学校第1回入学式を挙行。
 - 10. 4. 30 文部大臣の許可を受けて、清水女子商業学校と改称。
以後、この日を開校記念日とする。
 - 18. 3. 22 財団法人市毛学園の設立を許可された。
 - 4. 2 中学校令の改正により、前記2校併合し、清水女子商業高校となった。
 - 22. 4. 5 新学制に基づいて、清水女子中学校を設置。
 - 23. 4. 5 清水女子商業学校の組織を変更し、新学制による清水女子高等学校を設立。
 - 24. 10. 30 日本キリスト教学校教育同盟に加盟。
 - 25. 12. 7 学校法人清水女子学園の設立を認可された。
 - 44. 10. 17 市毛金太郎校長 92歳をもって召天された。
 - 44. 10. 23 市毛陽二郎氏 校長に就任。（至 平成12年3月31日まで）
 - 8. 7 市毛陽二郎氏 理事長に就任。（至 平成15年10月8日まで）
- 平成
- 6. 4. 1 学校法人清水国際学園 清水国際高等学校・清水国際中学校に改称。
高校を共学制とする。
 - 10. 4. 1 清水国際中学校も共学制実施。
 - 12. 4. 1 市毛陽二郎氏 学園長に就任。牧野彰夫氏 校長に就任（同年5月18日退任）
 - 12. 6. 26 山内昭二氏 校長に就任。（至 平成20年3月31日まで）
 - 15. 10. 8 市毛陽二郎理事長・学園長 79歳をもって召天された。
 - 11. 5 山内昭二氏 理事長に就任。（至 平成26年3月31日まで）
 - 19. 4. 1 清水国際中学校の生徒募集停止。
 - 20. 4. 1 湯浅邦次氏 校長に就任。（至 平成26年3月31日まで）
 - 23. 4. 1 既設校舎の改築・耐震補強工事に着手。
 - 25. 3. 18 本館（新築）、別館（耐震補強）、弓道場・部室（新築）、グラウンドが完成。
 - 25. 10. 25 創立80周年記念式典及び新校舎竣工式を挙行。
 - 26. 4. 1 湯浅邦次氏 理事長に、平等民雄氏 校長に就任。（至 令和3年3月31日まで）
- 令和
- 3. 4. 1 平等民雄氏 理事長兼校長に就任。（至 令和5年3月31日まで）
 - 4. 4. 1 前田利久氏 校長に就任。（至 令和6年3月31日まで）
情報ビジネス科をITビジネス科に改称し、共学とする。
 - 5. 4. 1 水野克彦氏 理事長に就任。
 - 6. 4. 1 相澤優次氏 校長に就任。
 - 6. 8. 30 清水国際中学校廃止。

9. 令和6年度 校務分掌一覽表



10. 設置する学校・学科・入学定員・在籍生徒数

令和7年4月1日現在

高等学校		(人)				(人)				(クラス)			
学科名	学則上の定員				令和7年4月1日現在生徒数				学 級 数				
	1学年	2学年	3学年	計	1学年	2学年	3学年	計	1学年	2学年	3学年	計	
普 通	180	180	180	540	86	71	82	239	3	4	4	11	
うち男子					48	37	44	129					
うち女子					38	34	38	110					
ITビジネス科	70	70	70	210	54	65	69	188	2	3	3	8	
うち男子					35	39	37	111					
うち女子					19	26	32	77					
合 計	250	250	250	750	140	136	151	427	5	7	7	19	
うち男子					83	76	81	240					
うち女子					57	60	70	187					

11. 役員・教職員の概要

理事等の数 (令和7年3月31日現在)

選任区分	定数	実数	任期
校 長	1人	1人	—
評 議 員	1人	1人	3年
学識経験者	3人	3人	3年
宗教関係	1人	1人	3年
理 事 計	6人	6人	
監 事	2人	2人	3年

評議員の数

選任区分	定数	実数	任期
教 職 員	2人	2人	3年
卒 業 生	3人	3人	3年
保 護 者	2人	2人	3年
学識経験者	6人	6人	3年
評議員計	13人	13人	

教職員数

(令和7年4月18日現在)

区 分	男	女	計		
校 長	1人		1人		
教 頭	1人		1人		
教 諭	16人	8人	24人		
養護教諭		1人	1人	平均年齢	
常勤講師	5人	3人	8人	教員本務	42.1歳
非常勤講師	7人	11人	18人		
教 員 計	30人	23人	53人	非常勤講師	53.8歳
事務職員	1人	4人	5人		
実習助手(ALT)		1人	1人	事務職	46.6歳
スクールバス運転手	1人		1人		
職 員 計	2人	5人	7人		
教 職 員 計	32人	28人	60人		

II. 令和6年度 事業報告

【1】建学の精神

「社会で自立できる人材の育成」を目標に、「至誠」「勤労」「協和」の校訓とキリスト教の「隣人愛」の精神による教育。

【2】目指す学校像

- (1) 生徒の多様な進路に応えられる学校
- (2) 地域に信頼され、必要とされる学校
- (3) グローバルな視野に立ち、社会貢献のできる生徒を育成する学校

【3】目指す生徒像

- (1) 明るく思いやりの心を持ち、他者と力を合わせ助け合うことができる生徒を育てる。
- (2) 明確な将来目標を持ち、その実現に向けて根気強く取り組む生徒を育てる。
- (3) 自ら学ぶ意欲を持ち、積極的に知識や技能とコミュニケーション力を身に付けた生徒を育てる。
- (4) 基本的な生活習慣の身に付いた健康でたくましい生徒を育てる。

【4】本年度の重点目標

- (1) 挨拶を通じた人づくり。
- (2) 主体的な学びで、基礎学力の向上を図る。
- (3) きめ細かな進路指導で、より良い進路実現を図る。
- (4) 地域交流と地域貢献を行なう。

【5】具体的方策

- (1) 挨拶を通じた人づくり
 - ① 挨拶の意義を考えさせる
 - ② その場にふさわしい挨拶とマナーの指導
 - ③ 学級・学年・授業・分掌・生徒会・部活動を挙げての取り組み
- (2) 主体的学びで、学力の向上を図る
 - ① ICT 機器を活用し「わかる授業」・「楽しい授業」・「身に付く授業」の実践
 - ② マナトレの見直しと改善、補習・講座の充実
 - ③ 探求学習による思考・判断力・表現力の伸長
 - ④ 国際交流をより積極的に実施する
- (3) きめ細かな進路指導で、より良い進路実現を図る
 - ① 1 年次から目標を持ち、進路を明確にし、段階的な指導を行なう
 - ② 個人面談を充実させ、教員が連携し的確な情報を提供できるような指導を行なう
 - ③ 高大連携や地元企業との連携強化
- (4) 積極的な地域交流を行なう
 - ① 生徒会活動・部活動を通じて、地域イベントへの参加、ボランティアを通じた奉仕活動の実践
 - ② 授業を通じて地元商店や企業との交流

【6】その他の重点項目

- ① HP や SNS を通じ行事や学校紹介など積極的な広報活動
- ② 生徒がチャレンジ、活躍できる場を増やし、その努力の過程を評価
- ③ 多様な問題を抱える生徒に対応するため、相談室・保健室からの情報共有

【7】 学校法人における事業の概要

1. 理事会・評議員会の開催

開催日： 令和 6 年 5 月 23 日（金）

令和 6 年 12 月 25 日（水）

令和 7 年 3 月 7 日（金）

上記 理事会及び評議員会で審議いただいた主な議題

- ①清水国際中学校廃止認可申請について
- ②私立学校法改正に伴う学校法人清水国際学園寄附行為変更認可申請について
- ③学校法人清水国際学園理事の改選及び選任について
- ④学校法人清水国際学園評議員の選任及び推薦について
- ⑤令和 5 年度事業報告および決算・監査報告について
- ⑥令和 6 年度補正予算について
- ⑦令和 7 年度当初予算及び事業計画について
- ⑧静岡市清水区天神一丁目 2 の土地購入について
- ⑨別館校舎の空調機更新工事について
- ⑩借入金限度額及び当座貸越契約について
- ⑪不動産購入及び空調設備更新工事等に伴う借入金について
- ⑫無期転換に関する新規規程の制定について
- ⑬育児休業規程及び介護休業規程の一部改正について
- ⑭教職員給与規程の一部改正について
- ⑮役員等賠償責任保険の契約更新について
- ⑯その他

2. 教職員の採用及び退職について

① 令和 6 年度の退職者

7 名（内訳：教頭 1 名、常勤講師 2 名、非常勤講師 3 名、事務職 1 名）

② 令和 7 年度新規採用者

10 名（内訳：常勤講師 1 名、非常勤講師 8 名、事務職〈令和 7 年 2 月採用〉1 名）

【8】令和6年度決算について

※資金収支決算の概要

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動におけるすべての収入と支出を明らかにして、支払資金の顛末をあらわす計算書です。この計算書の特徴は、収入と支出をすべて現金預金で行なわれたものと見做して表示し、実際には当該年度の現金預金の収支ではない期末未収入金、前期末前受金、期末未払金などを資金収支の調整勘定として差引調整計算することで期末における現金預金残高を翌年度繰越支払資金として表示するところに特徴があります。

今期は在籍生徒数が451名と前年度に比べ37名増加しました。前期繰越金として普通預金と手元現金を併せて283,442千円あり、収入としては、授業料・入学金等の学生生徒納付金187,355千円、補助金252,430千円、寄付金収入51,883千円、令和7年度に入学する生徒の入学金等の前受金23,800千円、借入金204,570円等を計上しました。

一方、支出として人件費332,095千円（うち退職金支払額839千円）、経費として教育研究経費と管理経費を合わせ88,609千円、施設関係支出に149,666千円及び設備関係支出に4,609千円、借入金支払利息3,133千円、借入金返済120,869千円等を計上した結果、次期繰越金として262,665千円（前年度比△20,777千円）残すことができました。

※事業活動収支決算の概要

事業活動収支計算書を作成する目的には2つあります。ひとつは、1年間の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、その他の活動の3つの活動区分に集計される事業活動収入と事業活動支出のそれぞれの内容を明らかにすることです。経常的な収支（教育活動収支と教育活動外収支）と臨時的な収支（特別収支）の各区分ごとの収支の状態を明らかにします。ここで用いられる「事業活動収入」とは学校法人の負債とならない収入のことをいい、「事業活動支出」には資金収支計算書の支出と違って、実際には現金預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含めた金額となります。

ふたつめは、基本金組入後の収支均衡の状態を明らかにすることです。学校法人は本来、収支均衡を目指す非営利法人で、学校に入ってきた事業活動収入を事業活動支出という形で生徒に還元し、収支を均衡させることを目的としています。よって、当該会計年度において基本金組入額を控除した当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入および事業活動支出の均衡の状態を明らかにするため、事業活動収支計算書を作成するものです。事業活動収支計算書は一般企業の損益計算書にあたり、採算の取れた経営をしているか、儲かっているかも判断できますが、企業と違い利益を追及しているわけではないので、利益・損失という言葉の代わりに「収支差額」と言っています。

【教育活動収支：事業活動収入の部】

① 学生生徒等納付金 : 187,355 千円 (前期比+11,998 千円)

増加額 11,998 千円の内訳

①授業料 生徒数増加により前期比+14,378 千円

②入学金及び施設整備費 前期比 △2,380 千円

② 手数料収入 : 3,844 千円 (前期比+712 千円)

増加理由：受験者数が前期比 4 名減少するも受験料を 3 千円値上げしたため。

③ 寄付金 : 15,111 千円 (前期比+5,927 千円)

内訳：卒業生からの寄付金 672 千円

同窓会 1,000 千円

PTA から ICT を活用した授業環境の整備及び部活動手当援助、エアコンの電気代に充当するためとして

12,597 千円

企業等からの寄付金合計 842 千円

④ 補助金 : 252,430 千円 (前期比+17,360 千円)

補助金の主なもの

県補助金

経常費補助金 221,848 千円

授業料減免事業費補助金 25,834 千円

スクールカウンセラー・就学支援金事務費補助金 872 千円

私立学校物価高騰対策支援金 902 千円

県補助金合計 249,456 千円

市町村補助金・・・静岡市私立学校振興補助金等 2,974 千円

⑤ 付随事業収入：補助活動収入 (業者からの販売手数料他) 534 千円

受託事業収入：NHK 学園協力校経費 1,256 千円

⑥ 雑収入 : 1,043 千円 (前期比△2,178 千円)

うち 退職社団交付金：595 千円 (前期比△1,418 千円)

・・・退職者に対する退職金支払資金

⑦ 教育活動収入計：461,578 千円 (前期比+33,136 千円) A

【教育活動収支：事業活動支出の部】

① 人件費

人件費総額では今期 321,393 千円と、前期に比べ 3,428 千円増加した。

退職金支払で△1,517 千円減少したものの、教職員の人件費で 5,383 千円増加したのが、その理由である。

② 教育研究経費

116,862 千円（うち減価償却費 59,965 千円）（前期比+148 千円）
光熱水費が前期比 1,544 千円増加したがその他は前期並みの金額であった。

③ 管理経費

39,954 千円（うち減価償却費 8,241 千円）（前期比+23,001 千円）
主な増加項目
減価償却額 +6,123 千円
渉外広報費+17,975 千円
（るるぶ作成による学園案内、90 周年記念誌を含む）

④ 教育活動支出計：478,209 千円（前期比+26,578 千円） B

教育活動収支差額 (A - B) = △16,631 千円（前期比△6,558 千円） . . . C

【教育活動外収支：事業活動収入の部】

① 受取利息・配当金：1,307 千円（前期比+588 千円） D

【教育活動外収支：事業活動支出の部】

① 借入金等利息

3,133 千円（前期比△337 千円） E

教育活動外収支差額 (D - E) = △1,826 千円（前期比△925 千円） . . . F

経常収支差額 (C + F) = △18,457 千円（前期比△7,483 千円） . . . G

【特別収支：事業活動収入の部】

施設設備寄付金 . . . グランドの人工芝の張替資金 36,771 千円
内訳 後援会 23,006 千円
生徒会 8,833 千円
PTA 4,932 千円

特別収入計：36,771 千円（前期比 +27,160 千円） H

【特別収支：事業活動支出の部】

0 千円（前期比 0 千円） I

特別収支差額 (H - I) = 36,771 千円（前期比+27,816 千円） J

基本金組入前当年度収支差額

(G+J) = 18,314 千円 (前期比+34,643 千円) K

基本金組入額合計 : △57,365 千円 (前期比+5,765 千円) L

【今年度の固定資産純増加額+設備関係の長期借入金の今期返済額】

今年度の固定資産の増加額から減少額を控除した額 (603 千円) に新校舎関係建設費等長期借入金の今期約定返済分 56,762 千円を足した金額が基本金組入額となる。

当年度収支差額 (K+L) = △39,051 千円 (前期比+28,878 千円) . . . M

前年度繰越収支差額 = △24,735 千円 (前期比△67,929 千円) N

基本金取崩額 44,746 千円 (中学校廃止による取崩額) O

翌年度繰越収支差額 △19,040 千円 (前期比+5,695 千円)

令和 6 年度決算では、新入生から月 3,000 円授業料を値上げしたこと、及び生徒数が 37 名増加したことにより学生生徒等納付金が前期比 11,999 千円増加した。また、入学検定料も 3,000 円値上げしたことにより受験生が 4 名減ったにもかかわらず 712 千円増加した。

今年度は学校に隣接した土地 (約 200 坪) を購入したほか、別館校舎のエアコンの更新やグラウンドの人工芝の張替等大きな支出があったが、後援会・PTA・生徒会などからの寄付が総額で 52 百万円近くもあり、厳しいながらも無事決算を終えることができた。

また、昨年 8 月には平成 18 年以降募集停止として、休校状態であった中学校を廃止した。

令和 7 年度以降は、少子化が進む中で学校がどう生き残るか、そのためには収入の柱となる生徒数を増やすことが必要であり、中学生及びその保護者にはどうすれば良いのか、しっかり検討していかなければならないと思っている。